

今週のお薦めレコード

テンシュテット
生誕100年を祝して



このレコードを聴きタイ

第8025番 税込み1650円



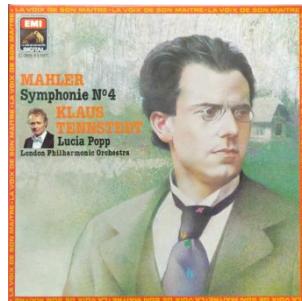
クラウス・テンシュテットは1926年東ドイツ出身。1971年に亡命し、欧米各地で活躍したが、1985年に咽頭癌を発病。1993年からは活動休止し、1998年(71歳)で死去。

メンデルスゾーン、シューマン 交響曲第4番
ベルリン・フィル／テンシュテット
独エレクトローラ／1C067-03904／切手ラベル／
1980年デジタル録音／G

テンシュテットは「イタリア交響曲」にさえ殊更感情を持ち込まない。彼はいつもそうだが、深い楽譜の読みから、音楽自体に語らせる。まるで音符や休符の交通整理をするように。それが冷たくならないのは彼の人間性だろう。シューマンでは主旋律と対旋律が同じ重みをもって絡み合うから、深い音色を生む。主部になって勢いづいた時にはそれらが束になって進む。その効果は小気味よい。テンシュテットは主情派からは最も遠くに位置する指揮者であり、かつてカイルベルトが歩んだ道を歩んでいるのだろうか。(山田)

第8026番 税込み2750円

第8026番 税込み2750円



マーラー 交響曲第4番
ルチア・ポップ(S)ロンドン・フィル／テンシュテット
仏パテ／C069-43397／1982年デジタル録音／G
すでに6曲の録音を終え、L.ポップを迎えての人気曲。西側で活動を初めて10年。とても伸びやかになった彼の美点はこのマーラーで最も良く生かされている。まるで孵化した蝶が喜びを謳歌しているような演奏である。ウィーン・マーラー協会から表彰を受けた自信あふれる棒は、2年前のシューマンの固さはすっかり取れ、人気もうなぎのぼり。縦の線にぎっしり詰まった音符に生命力を与え、見事に解き放ち、または集めたり交差させたり、目まぐるしいマーラーの音楽を極めて聴き易くまとめていく様は聴いていて気持ちがいい。終楽章に聴くつぼみが弾けたように清純なポップの歌唱も見事だ。

第8027番 税込み4400円



マーラー 交響曲第7番『夜の歌』
ロンドン・フィル／テンシュテット
独エレクトローラ／1C157-43008／2枚組／
切手ラベル／1980年デジタル録音／G

短い間だがショルティの薰陶を受け続けていたロンドン・フィルの響きは固い。テンシュテットが3年ほど掛けてマーラー・シリーズを続けていくうちに、次第にほぐれていくのが良く分かる。テンシュテットはこの作品の中のロマンティックな要素も十分に、時には全盡を傾けて壮大に引き出して新たな投影をする。それによって変化をもたらされた音楽は力を得てこの作曲家の分裂気味な部分を残しながらもスケール感ある山を築き上げる。退廃的あるいは世紀末的香りを一掃した演奏として、テンシュテットを評価したい。

第8028番 税込み5500円



ブラームス ドイツ・レクイエム
アルト・ラプソディ、運命の歌
J.ノーマン(S)、ヒンニネン(Br)、W.マイア(Ms)
ロンドン・フィル／テンシュテット

仏パテ／2703133／2枚組／DMMプレス／
1984-5年デジタル録音／G

コントロールの行き届いた合唱団に生氣を与えたテンシュテット。まるで、横たわる死者を花で埋め尽くす情景を見るように、それははかなくも美しい。悲しみを抑えて死者に語り掛けるようなジェシー・ノーマンの人間味あふれる声。W.マイアの声は抑え気味な「アルト・ラプソディ」だが、理由があるのだろうか。そして、ドイツ・レクイエムの雛型とも言うべき「運命の歌」で結んでいるのは良いアイディアだ。